

H.C.R. 2022 福祉機器利用者アンケート ～集計結果報告～

福祉機器利用者やその支援者がもつ要望や意見を開発者等に届けることを目的に、本会では例年に続き、福祉機器利用者とそのご家族や、福祉サービスの従事者を対象とする「福祉機器利用者アンケート」をH.C.R.2022の会期中に実施し、287件の回答を得ました。

回答者の内訳として、年齢別では50歳代が30.0%と最も高く、続いて40歳代が24.0%、60歳代が17.8%と続きました。60歳代については、2019年が12%、2021年が15%と年々増加しています。このことから、人生100年時代を見据え、日常生活における福祉機器の利用を視野に自ら情報を得ようと来場され、ご協力いただいたであろうことが伺えます。

本アンケートにおいて、福祉機器利用者にとって関心の高いと思われる回答が多く寄せられた「福祉機器情報の入手方法」、「購入／レンタル時の相談窓

口」、「福祉機器の利用にあたって望まれること」を集計しグラフにまとめました。また、「福祉機器の開発・利用についてのご意見」にいただいた回答の概要を、項目ごとに整理して記載しています。

さらに、今回のアンケート結果をふまえ、福祉機器の開発者目線から、国立障害者リハビリテーションセンター研究所 福祉機器開発部長 井上剛伸氏より今後の福祉機器開発に期待されることなどについて寄稿いただきました。ぜひお読みください。

本会では、今回のアンケート結果を参考とし、H.C.R.をはじめとした事業をとおして、福祉機器利用者に資する情報の発信に努めます。

福祉機器開発・販売関係者の皆さまにも、今後の事業拡充に向け本アンケート結果を参考にいただければ幸いです。

①福祉機器情報の入手方法（※複数回答可）

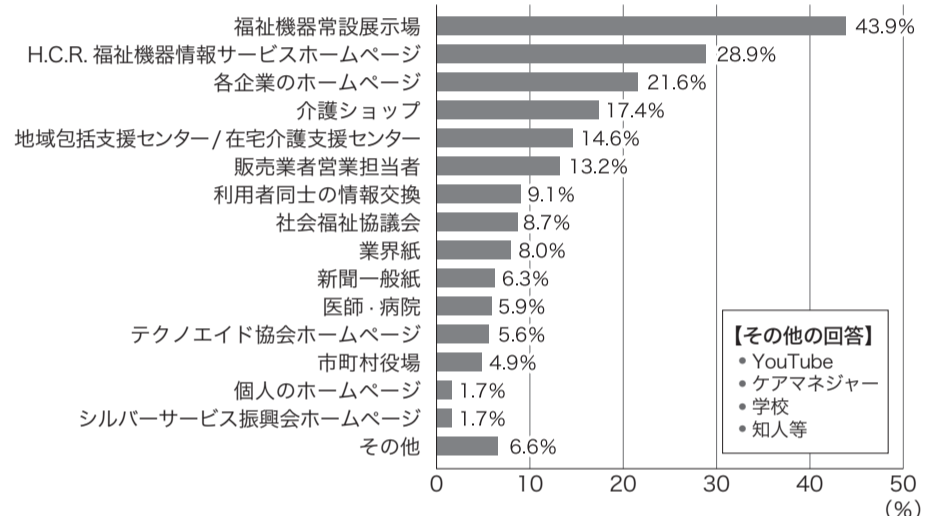
福祉機器の入手方法（場所）は、例年同様「福祉機器常設展示場」が43.9%と最も高い結果でした。

続いて「H.C.R.の福祉機器情報サービスホームページ」が28.9%、「各企業のホームページ」が21.6%と続きます。

コロナ禍において、福祉機器情報を得るための手段としてWeb媒体が浸透してきたことが伺えます。

以降、「介護ショップ」17.4%、「地域包括支援センター／在宅介護支援センター」が14.6%となりました。

Web上での情報収集が一般化してきていますが、その一方で、機器を実際に見て、触って、相談することができるリアルな機会の重要性は大きく、欠かせない場であることが伺えます。

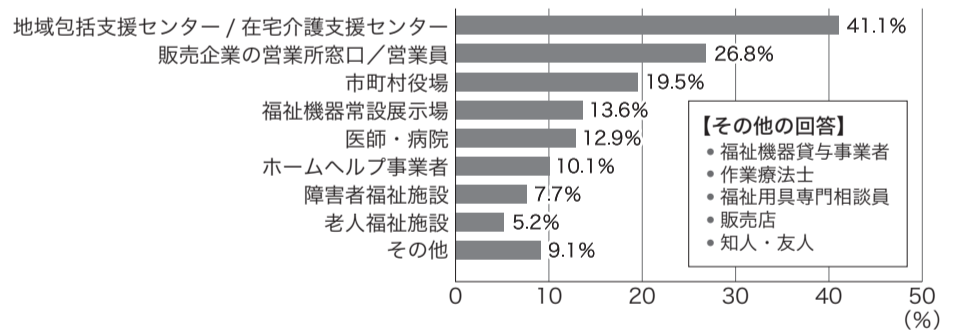


②購入／レンタル時の相談窓口（※複数回答可）

福祉機器の購入／レンタル時の相談窓口として、例年同様最も高いのは「地域包括支援センター／在宅介護支援センター」であり、41.1%という結果となりました。

身近な地域で相談ができ、介護・福祉分野の専門職が配置されていることから福祉機器利用者の環境や状況にあわせた適切な対応ができることが背景にあると考えられます。

次に「販売企業の営業所窓口／営業員」が26.8%、市町村役場が19.5%、福祉機器常設展示場が13.6%となりました。



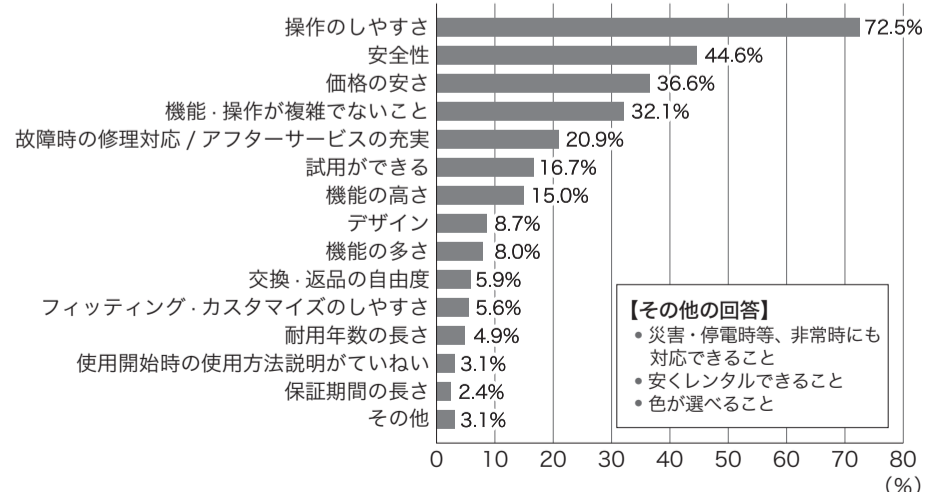
③福祉機器の利用にあたって望まれること（※3つまで選択可）

福祉機器の利用にあたって望むこととして、「操作のしやすさ」が72.5%と、多くの方が操作性を重視しているという結果でした。

以下、「安全性」が44.6%、「価格の安さ」が36.6%、「機能・操作が複雑でないこと」が32.1%と、昨年の順位と同様に高い数値となっています。

また、今回その他に「災害・停電時等、非常時の対応ができることを重視する」との回答が散見されました。

利用者の日常生活を支える福祉機器だからこそ、非常時の対応や備えが必要不可欠であることが伺えます。



⑥福祉機器の開発・利用についてのご意見 (自由記述)

(1) 福祉機器の開発に期待するご意見

1. ユーザーの小さな声を現実の形にしてくださる開発者のみなさんに感謝しています。新たな福祉機器によって、少しずつ生活が豊かになったり、急激にできることの幅が増えて楽しく過ごせたりと、福祉機器開発の進歩が日々の暮らしに直結しています。
2. 福祉機器ユーザーに寄り添った機能性の充実を期待しています。例えば、長年使用するにあたって、劣化しにくい素材であることや、動きやすいように軽量素材である製品がもっと増えれば良いと考えています。
3. 家の中で使ってみたら機器が大きすぎて使い勝手が悪かった、という利用者の方の声を聞くことがあります。日本の住宅環境に即した機器の開発を期待しています。
4. 安全で利便性があるものが増えていて感じています。しかし、製品保証がない場合故障時が心配で購入に踏みきれないことがあるため、アフターフォローを充実させてほしいです。
5. どんどん機器の開発が進んで多機能になってきて便利だと思えますが、高齢者には使いこなせないものも多いと感じています。単純で分かりやすい操作で使えるようになってほしいです。
6. 在宅向けの機器がもっと増えてほしいです。個人の住宅環境に合わせて、できるだけ安価にオーダーメイド制作してもらえるようなサービスができれば良いのではないかと思います。
7. 福祉機器利用者のそれぞれの障害特性に合わせて、脱着してカスタマイズできるような製品の開発が進んでほしいです。
8. 福祉機器利用者や介護者、両方の視点からの声を開発に活かしてもらえると嬉しいです。
9. 電気を使って動かす製品が多くなり、停電時に使用できなくなってしまうことが心配です。非常用バッテリーを初めから搭載しているような製品や、セットでレンタルできるような仕組みがあれば良いと思います。
10. 耐久性、操作性の向上、価格、この3つの要素のバランスが良いことが重要だと考えています。
11. 大きくて多機能なものよりも、小型・中型でシンプルなものの方が使い勝手が良いと感じます。

(2) 福祉機器利用者の情報収集や企業による情報発信に関するご意見

1. Web上での情報提供が多くなり、実物に見て触れることができる機会が減ってきたように感じます。コロナ禍の影響もあるかと思いますが、やはり福祉機器は実際に確認してみないと分からないことが多いので、実物の製品を見られる機会が増えると良いと思います。
2. カタログを見ても、機能の詳細等に専門用語が多く、よく理解できないことがあります。一般の人が見てもわかりやすいカタログを普及してほしいです。
3. 福祉機器も他の一般製品のように、Web上でレビューが書き込めて、評価が見られるような仕組みがあると良いと思います。
4. H.C.R.に來場して初めて、こんなにたくさんの機器が進化して開発されていることを知りました。福祉機器について幅広く知ることができる場がもっと身近にほしいと感じました。
5. 福祉機器利用者や家族が、直接福祉機器を見て試せる場所が限られていると感じます。常に商品を見て比較できるような場所を増やしてほしいです。
6. 福祉機器製品の情報は、Webで検索してもなかなか出てこないように思います。誰でも簡単に情報収集ができるような仕組みや場所ができれば嬉しいです。
7. Webが使えないため、紙媒体のパンフレットやカタログは継続してほしいと願っています。

(3) 今後の開発に期待したい具体的な福祉機器・用具

1. 重度の身体障害があっても使いやすいような、操作性が良く、高機能で軽量の電動車いすの開発を望みます。
2. 段差解消機を自宅内に導入したくても、家の大きさに対する機器の大きさや高さがつり合わない等の問題から設置が難しい状況があります。屋内用でコンパクトかつ設置が簡単なものが開発されたら良いと思います。
3. 床面よりも下に掘り下げた浴槽に入る形式の入浴機器や入浴リフトが良いと思いました。普及することを期待しています。
4. ストマ用品の情報は、実際に見て比べるような機会と場がないと感じます。窓口などが増えればよいと思います。
5. 杖やシルバーカー、歩行器など、茶色や黒といった色のものが多いですが、もっと色のバリエーションがありオシャレなものが増えてほしいです。
6. AIやICT機器の進歩がめざましいですが、福祉の世界にももっと活かすことができたら、と思います。
7. 姿勢の保持に配慮したシルバーカーができてほしいです。
8. 靴や衣服など、肌にくれるものは試用ができないことが多いですが、サンプルなどで試することができる機会があればより良いと考えます。また、消耗品のため、より安価で購入できるようになることを期待しています。
9. 栄養補助食品を利用した際に、味やにおいが強く敬遠されてしまいました。日々たくさん種類が販売・開発されていますが、よりおいしくて健康的なものを期待しています。
10. 障害のある人が自分で運転できる福祉車両の開発と普及に期待しています。

(4) 福祉機器の販売やレンタル・展示に関するご意見

1. 日々、製品の改良がされる一方で、費用面やもったいないとの気持ちから、特に高齢者が買い替えを控える傾向があります。気軽に新しいものが使用できるという観点から、福祉機器のレンタルがもっと広まってほしいです。
2. 新しい機器が出来た時に買い替えしやすいような、買取サービスがあると良いと思います。
3. レンタルする際に、汚れたときや故障したときの交換保障があると安心して利用できます。
4. 商品を購入する時、メーカーや販売店から、その製品のデメリットや不便さもしっかりと伝えてほしいです。
5. 製品の説明をしっかりと受けてから購入することが大切だと感じています。以前、適切な使い方やこんな使い方もできるなど具体的な事を教えていただき、安心して購入できました。
6. 気軽に試用ができるようなサブスクリプションのシステムなどができたら面白いと思います。
7. 別メーカーの同種製品について、一度に比較して検討できるような仕組みや機会がほしいです。それぞれの製品にメリットデメリットはあると思うので、比較することで自身にあった製品を選択することができると思います。
8. 介護保険が適用されるか否かの情報は、分かりやすく表示されているとありがたいです。

総評レポート

～福祉機器利用者アンケート結果総評～

これからの福祉機器開発に寄せる期待と展望



国立障害者リハビリテーションセンター研究所
福祉機器開発部長

井上 剛伸 氏

もう、20年以上も前のことになりますが、初めてドイツの福祉機器展に行ったときに、障害当事者の方の来場者が少ないことに驚きをおぼえました。裏を返すと、日本の福祉機器展には、当事者の方々やご家族の方々が多く来場されているということになります。H.C.R. 2022での利用者の方を対象としたアンケートでは、コロナ禍中にもかかわらず、多くの方がご回答くださり、当事者の方々の福祉機器への関心の高さが表れていると思います。

その回答を拝見すると、いろいろなことが見えてきます。「福祉機器情報の入手方法」で、「福祉機器常設展示場」が最も多いというは、喜ばしいことだと思います。やはり、実物を見るということで得られる情報量は多いものがあります。各地で展示場が整備されてきていることも伺えるデータです。一方、2位、3位にランクづけられているホームページの利用も大切です。いろいろな方法で情報を収集することが可能となっていることの表れだと思います。「購入/レンタル時の相談窓口」では、「地域包括支援センター/在宅介護支援センター」や「販売企業の営業所窓口/営業」、「市町村役場」が上位に入っているという結果になっています。やはり実際の購入やレンタルにあたっては、地域で身近な人に相談をすることが重要であり、それが実践されていることを示す

結果と考えられます。もう少し欲をいうと、情報収集と相談窓口が一緒になっている姿、ワンストップという形が利用者やご家族の方々にとっては楽になるのではないかと思います。このあたりは、制度の設計も含めて今後の課題になるかと思えます。

「福祉機器の利用にあたって望まれること」、ここには福祉機器開発に携わるものとして、考え直すべきことが多く含まれていると感じました。上位に位置づけられている「操作のしやすさ」、「安全性」、「価格の安さ」は機器開発において重要なポイントで、特に「操作のしやすさ」については7割以上の方の回答があったというのは少し驚きでした。「まだまだ福祉機器は操作しにくいですよ」、開発者としてはそのような解釈をしたくなります。後半の自由記述の回答の中にも、「多機能で操作しにくい」ですとか、「高機能でも使いやすいものを望む」といったご意見をいただいています。なんとなく使い勝手はこの程度ではないかと思っているものでも、再度見直し、もうワンステップアップする必要があるように思います。

「福祉機器の開発・利用についてのご意見」にも、今後の福祉機器開発に向けて重要な指摘が多く挙げられていると思います。一つは、在宅でもっと使える福祉機器の開発です。ロボット介護機器の開発から普及に至る10年を超

える施策の中でも、どうしても施設での利用を想定するものが多く開発されてきている印象があります。その理由は、施設の方が試して使いながら改良するというサイクルが回しやすいことや、有効性の評価が行いやすいこと、ビジネスモデルが作りやすいこと等が挙げられるのではないかと思います。そろそろ在宅での利用、特に在宅利用者の自立や自律を促進する機器の開発に焦点が当たることについても深まっていけばと考えています。もう一つここで取りあげたいのは、福祉機器ならではの重要な課題、利用者一人ひとりの個性に合わせた機器開発へのニーズです。DXやAIという新しい技術が、ビッグデータに基づく一般化の方向に向かうために使われるのではなく、個々のニーズに応える個性性の高い福祉機器の製作や利用に使われることを強く望みます。高機能の福祉機器でも簡単に組み立てることができるようなモジュール化や、3Dプリンタのようなデジタルファブリケーションの技術を活用することで、一人の利用者のためのものが在宅で作れてしまう未来も、そう遠くはないのではないかと思います。個別にカスタマイズしたユーザーインターフェースを使って、メタバースの世界で自由に活動できるなんていうことも現実味を帯びた話になっています。本当の意味での包摂的社会、包摂的コミュニティの構築に、福祉機器の役割は非常に大きいと思います。使う側、作る側がいっしょになって福祉機器を考えられる世の中をみんなで作りませんか？